

令和2年6月25日

学校法人三幸学園  
東京ビューティーアート専門学校  
校長 菅井 健治 殿

学校関係者評価委員会  
学校関係者評価報告委員長 猪狩正義  
自己評価報告責任者 佐藤弘之

### 学校関係者評価委員会報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 藤原信一 (飛鳥未来きずな高等学校 御茶ノ水キャンパス キャンパス長)
- ② 平井宏子 (SANKO 日本語学校東京 教務主任)
- ③ 猪狩正義 (株式会社 フジシン)
- ④ 楊蔚樂 (第18期 卒業生)
- ⑤ 植田晃子(議事録) (第2期 卒業生)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和2年6月24日 (会場 東京ビューティーアート専門学校 501教室)

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2019年度 学校法人 三幸学園 東京ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：教務課長 佐藤弘之

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 猪狩正義

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### 【目標】

- 1) 担当教員の効果的な配置などを検討し、より実践的な授業の展開を推進する
- 2) 上記目的達成のため、定例的な分野ごとの教科会議などの実施を推進する

### ① 前年度重点施策振り返り

昨年は職業実践課程として、シラバスの進め方や担当教員の配置など様々工夫を行った。

授業の進行・習熟度の確認のため2か月に1度の教科会議を実施。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

設定した目的に対し、学校として適切に尽力されていることは生徒にとっても好ましいことである。継続的な取り組みを期待したい。(猪狩委員)

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

在校生・保護者の専門学校での学びの特色、特徴や学校教育方針の理解・浸透の強化。  
現場力・実践力・社会人基礎力向上を目的とした学内授業と現場実習の連携強化。

#### ② 今後の改善方策

入学前に開催するスタートアッププログラムにて、生徒・保護者別教育理念・目指す人材育成像・方針への理解を促し、研修プログラムでは職業観を醸成し、明確な目標設定を行います。生徒も保護者も、そして教職員、全員の目につくような場所（校内）にポスター掲示や教職員向けのムービー映像を作成し視覚や聴覚からの浸透を図ります。

施設実習のカリキュラムでは実施後に受け入れ企業と実習生それぞれにアンケートを実施し、学びの検証をすることで業界のニーズを把握し、人材育成に役立てます。

#### ③ 特記事項

入学前オリエンテーションの開催

保護者様へは行事の開催や就職・実習について定期的にアプリ(スタディサプリ)より情報配信、成績表の送付を行っている。

#### ③ 学校関係者評価委員会コメント

教育理念、目的、目指す人材育成像などについては、今後も繰り返し伝え続けることが必要と考えている。また、今年度も入学希望者は昨対で増加したが現在はコロナ禍の影響もあり学校運営そのものや学習のスタイルが変わり、教員・生徒共に慣れるまでには一定の時間を要している。（教務課長 佐藤）

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### ① 課題

教育活動の積極的な情報公開

### ② 今後の改善方策

教職員の指導・実務スキル向上の為に研修を充実させる。

学園 HP では入学希望者への内容が主となっているが、業界・企業向けに教育の過程や成果に対する情報公開を積極的に行う。

### ③ 特記事項

学生管理システムによる生徒情報・成績管理を行っており、卒業生データも管理している。

人事・給与規定は就業規則として、雇用形態別に規定があり明確化されている。

学科ごとに教務主任、財務決済のための責任者を学校単位に配置している。

スタディサプリを WEB 活用し情報伝達システム化されている。

教務事務の人員を増員し、適切な管理運営を行っている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

生徒、保護者への周知に改善の余地がある。生徒向けには sankogate といった連絡・告知用の学内 SNS 活用がだいぶ浸透してきたが、保護者には文書による連絡が現状はまだ主となっている。

（教務課長 佐藤）

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

企業とのつながりを深め、産学連携の強化と教員の育成・指導の体系化。

新任教員の教務力向上。自分も成長できるクラス運営を行う為に、担任には 1)個に対応する対応力 2) 集団をまとめる力 3)チーム力のスキルが必要となる。

#### ② 今後の改善方策

企業・業界団体との連携による実践的かつ専門的な職業教育を協議・検討しマンネリ化を防ぎ活性化を促す。サロンワーク授業では企業とのコラボレーションによるインターンシップや学生サロンの開催により現場スキルを身につけさせプログラムの充実を引き続き推進していく。

実践的かつ専門的な職業教育を協議・検討することを基本方針とし、カリキュラム委員会では修正・改善を行う。教職員の教務研修や OJT 指導者の配置など人材育成にも取り組んでいたが、まだ十分とは言えず、こちらは引き続き体系的な教育を推進できるシステムの構築が必要。

#### ③ 特記事項

コロナ禍がなければ通常はサロンワーク授業を導入し実践的な授業の展開に力を入れている。

美容国家資格取得の為に学科にもコース選択の幅を広げ、任意で取得できる資格を増やし就職先の

幅を広げた。サロン・企業でのインターンシップを全ての学科で実施している。  
まつ毛エクステンション認定校としてカリキュラムの充実を図っている。その他、教員業務スキルアップ  
研修や教員リーダーシップ研修の実施。  
また、実現はしていないが海外のいくつかの施設より産官学連携や学校間協力推進の提案を  
いただいております、実現に向けて引き続き相互の協議を継続していきたい。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

産学連携や学内サロン(ルミナス)の社会、地域貢献に改善の余地がある。(教務課長 佐藤)

入学者が2割減の生徒数の学校もあるなか、生徒数が増えているのは日ごろの努力の成果が出ている  
のではないかと。(猪狩委員:美容科について)

カリキュラムが魅力だと広報でPRする学校が多いが、その点では差別化が難しいのではないかと感じる。

就職率、検定取得率等をPRする方がいいのではないかと。(猪狩委員:美容科について)

学費よりも利便性、立地、施設設備面で学校選びをする生徒が現状いる。(藤原委員)

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

就職率向上への取り組み。退学防止への取り組み。卒業生のサポートの充実。

業界・企業度との人材育成・キャリアアップシステムへの理解を深める

##### ② 今後の改善方策

入学前にはスタートアッププログラムを行い、将来のビジョンを明確にし、目指す職業の社会的意義を伝える。後期コース選択後にもスタートアッププログラム、卒業生ガイダンス、企業ガイダンスを開催し職業意識を高めていくことを持続させ、退学率、就職率向上を図る。

企業人事担当者との情報交換の充実により、職業ごとの求めるコンピテンシーを把握する。在校生の成長をデータとして集計するアンケートを実施しているが、その分析によって伸ばすべき能力を把握し指導に活かす。

##### ③ 特記事項

- ・担任指導者の設置 ・卒業生向けの求人をホームページで公開
- ・検定前には強化 WEEK の設定を行い、合格保証制度も設けている。
- ・同窓会 Link で卒業生の紹介、講習会の実施を行っている。

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

退学者数の増加に伴い退学率が 10%を超えてしまった。学校で把握している退学の理由と生徒の本質の理由に、相違がある。本質を見出す教務力を上げるのが課題である。（教務課長 佐藤）

留学生の入学も増えている。本科の生徒とは異なり目標が多岐に渡り、文化の違いもあるため、慣れるまで細かく指導を行わないといけないのが課題である。（楊委員：トータルビューティー科について）

留学生指導のノウハウ強化が必須となってくる。日本語学校も協力ができることがあれば全面的に支援させていただく考えである。（平井委員：トータルビューティー科について）

通信制高校卒業者の入学も増えているため、高校との違いから教えていく必要がある。通信制高校出身者の退学率に関して東京地区は増加。高校側も進路が決定後の指導を強化することが課題と考えている。（藤原委員）

美容学校で退学率 10%は結構あるようだ。入学後のギャップがあり退学に繋がるのではないかと。

（猪狩委員：美容科について）

コロナ禍の中、就職状況はどうか。（藤原様）

今年はコロナの影響もあり例年と比較し就職が厳しい状況にある。特にメイク業界が現在は難しく新卒採用が全体的にストップしているが、トータルビューティー科はメイク以外の求人を受験することもできるので、全体的にカバーできるのではないかと。美容師は求人が多い。

今年 3 月卒業生の中で就職先の美容室を解雇された生徒がいる。（副校長 木村：美容科について）

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

### ① 課題

教育給付金の利用希望者が少ない。

健康管理は年に1度の健康診断や季節的な流行伝染病についての注意勧告

### ② 今後の改善方策

学科を超えて参加できる就職ガイダンスを開催し、学生の希望職種の教員が支援できる体制をつくる。方からの出身者で提携寮に入居している在校生に対しては、寮母さんとの連携によって生活環境への支援を行う。クラス会議を活用し、関わる多くの教員で情報共有・意見交換することで問題点を把握でき、指導に役立てる。そして、保護者との連携を重視する。生徒の問題を把握し、保護者に連絡し、早期に対応する。

### ③ 特記事項

保護者様閲覧用のアプリの活用、行事の告知、日常の情報を共有し連携した指導を行えるよう環境を整えた。

学費応援制度による奨学金と連携した学費サポートがある。

グループ校である飛鳥未来高等学校へは講師を派遣し授業を行っており、美容の職業教育を行っている。

起業サポートとして、独立希望の卒業生が準備期間として働くことのできる面貸しの美容室を設置している。

三幸学園卒業生支援ホームページ「卒業生 LINK」の活用

卒業生の支援として独立起業支援や研修セミナーサポートを充実させた

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

会議でのクラス状況報告が設けられていないのが課題。今後定期的に共有の時間を設定していく。

また、最近増えてきているオンライン面接の際の指導も実施していく予定である。

（教務課長 佐藤）



## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

職種によってインターンシップ期間が月単位を希望している企業もありますので、期間や時期を検討していく必要がある。インターンシップ受け入れ先の拡大・希望業種での施設実習ができないケースがある。実施予定であるインターンシップ制度を充実させるためには業界団体との連携により、優良サロンの選定や、企業の市場調査も行い現代のサロンがどのような設備のもと営業を行っているのかを知り学校側も整備する事も検討するべきだと感じている。

### ② 今後の改善方策

インターンシップ時期・期間の検討・企業サロン理解を深める  
企業訪問・実習巡回の頻度を上げ、タイムリーな状況把握を行う

### ③ 特記事項

インターンシップカリキュラムの実施  
実習先アンケートの実施  
インドネシア政府公認のエステティック資格取得が可能なバリ研修の実施  
ロサンゼルス研修の実施

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

コロナの影響を受け、今年海外研修は実施しない。  
校外実習も情勢を見ながら実施をする予定である。(教務課長 佐藤)

## (7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

新設校や少子化問題により募集定員の確保が最も重要項目として掲げたい内容だと思います。  
新しいアイデアや卒業生の活躍、検定や国家資格の合格率など教育効果の実績を上げる事も必要。

### ② 今後の改善方策

教育成果として卒業生の活躍を打ち出す。  
入学希望者の職場【模擬】体験を計画するなど、早い段階で職業理解に努める

### ③ 特記事項

体験入学・校内・会場ガイダンスの実施  
各種イベントの実施  
学納金は募集要項に明確に記載しており、基本的には追加の徴収はない。  
教育訓練給付金制度の紹介

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

今年度は全体で360名ほどの生徒を迎えることができたが、今年は3、4月と広報活動ができず。  
6月以降段階的に対面でのオープンキャンパスなども再開しているので、夏休みに向けて高校生の進路活動を見ながら生徒募集にも注力していくつもりである。（教務課長 佐藤）  
きずな高校は専門に進む子は4割。進路活動にはこれから取り組む学生が多い。（藤原委員）

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

事業報告書の開示をしている。また、今年度は学園全体でコロナ対策支援として、10億円規模の給付金で生徒や卒業生の救済に当たっている。（教務課長 佐藤）

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

③ 学校関係者評価委員会コメント

学内でのハラスメント委員を設けている。（教務課長 佐藤）

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

積極的な地域貢献活動の実施

### ② 今後の改善方策

今後もサロンワーク授業との連携したボランティア活動実施を継続していく。

WEBにて施設貸出や美容技術で地域貢献活動実施を告知していく。

### ③ 特記事項

ケアセンター・地域イベントからの依頼により、ハンドマッサージやネイルケア・メイク技術の提供などボランティア活動を行っている。

校舎1階にサロンを併設し、地域の利用者へ格安にて施術を提供している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

学内サロン(ルミナス)の営業を停止。当面営業はできない状況。教室として使用。カリキュラムでのスチューデントサロンの実施は今後の情勢を見ながら検討していく予定である。

(教務課長 佐藤:トータルビューティー科について)

近隣住民の影響は大きい。喫煙等の指導等、協力して行っていく。(藤原委員)

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の受け入れ体制の整備

② 今後の改善方策

留学生の受け入れ・在学に対する職員理解を深める研修を実施。

留学生向け説明会の実施や担当者の設置。

日本語学校との提携を計る。

③ 特記事項

留学生への入試方法として学費の援助を目的とした特待生制度を設けている。

留学生取次者を設置している

④ 学校関係者評価委員会コメント

入学した生徒が卒業できるように、日本語学校とも協力してノウハウ等共有していきたい。

今年はベトナム出身者が多いので、言語が難しい。日本語学校にはベトナム語を話せる先生がいるので、サポートしてほしい。役割を持たせて、生徒が全員と話ができるよう取り組みをしている。前向きに考えられるよう指導している。(楊委員:トータルビューティー科について)

入学後のスタイルを浸透させるのが難しい。(副校長 木村:トータルビューティー科について)

日本語学校でもベトナム出身者の学生への対応が難しい。スタートアッププログラムを始めたが、人前で話すことや話し合うことが初めての子が多い。生徒の自主性、自律性を尊重しているが、成長の変化を感じられないこともある高卒の子が多いので考え方が幼く、頑張ることが恥ずかしいという気持ちがあるよう。ベトナム人の卒業生がアルバイトとして勤務しているので、協力していきたい。(平井委員)

国際科の卒業生の進路状況はどうか。(平井委員)

半分以上が卒業できない状況である。要因として、日本での生活になれずに単位不良になってしまう生徒が多いことや、ビザが下りないことがあげられる。

また、ステージアップ制度を利用して3人が本科で学ぶ予定であったが、その内1名はコロナの影響で学費納入が滞り、学業を断念せざるを得ない状況が発生している。(副校長 木村)

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・2019年度の自己評価の報告に対して、委員の方々から承認をいただいた。
- ・2020年度の目標として引き続き、教育理念である「技能と心の調和」を念頭に教育や人材育成を行っていく。

委員会でいただいたご意見を実施へつなげるために計画を立て、現場で活かせる知識や技術の提供について強化していく。